



はろるとむらさきのくれよん

クロケット・ジョンソン 作 岸田 衿子 訳
文化出版局 1972年 897円
64ページ 22×15cm

はろるとは月夜の散歩に出かけたくなりました。そこで、月と道をむらさきのくれよんで描いて散歩に出発です。はろるとは絵の中に入り、道を歩いていきます。はろるとが思いつくままに描いていく散歩は次第に冒険へと変わっていきます。

真っ白なページに絵を描いていくうちに新たな想像が生まれ、次に描くものを決める、という話の展開は、子どもたちのお絵かきに共通していて、いつの間にか空想の世界へ引き込まれていきます。最後にはろるとが自分のベッドを見つけて眠るまで、くれよんで描いた月がお母さんのように見守っていてくれます。



パンのかけらとちいさなあくま

リトアニア民話
内田 莉菫子 再話 堀内 誠一 画
福音館書店 1992年 840円
32ページ 27×20cm

びんぼうなきこりのべんとうはパンのかけらです。そのべんとうをぬすんだちいさなあくまは、おおきなあくまたちにかんかんに怒られてしまいます。おわびにきこりの役に立ってくるまで帰ってくるなど言われたちいさなあくまに、きこりは沼を麦畑に変えてくれるように頼みます。ちいさなあくまはみるまにりっぱな麦を実らせますが、地主に麦を全部持っていかれてしまいました。麦を取り戻すために、ちいさなあくまは知恵を働かせます。

いきいきと躍動感あふれる絵や、あくまがきこりの味方であるというギャップの面白さ、そしてちいさなあくまときこりが力を合わせて意地悪な地主と対決する痛快さに、つつい惹き込まれてしまいます。

